

# 2019年度 事業計画

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## (1) 調査研究事業

### ●シギ・チドリ部会

2019年3月で経団連自然保護基金からの援助は3年間で終了したため、今年度の申請は行なわなかった。しかし、シギ・チドリ類、ヘラシギ保全の活動を少しでも進めるため、年度途中で経団連自然保護基金以外の助成金の申請を計画している。

2017年度に実施した越冬地へのツアーを計画する。

\*予算50万円

## (2) 保全・再生事業

### ●沖縄・開発問題部会

1) 不要不急の開発による湿地破壊が止まらない。これらは何れも水の自然な流れを阻害する構造物建設に起因していることから、ラムネットJでは「水の自然な流れを守る」プロジェクトを進めている。そこで、今期より、部会の対象を沖縄から全国の開発問題に広げることを提案する。

2) 「水の自然な流れを守る」をキーワードに、各地の問題湿地とつながって諸活動を行う。

①複式干拓が行われている地域の市民と交流し、開門の重要性が広く認知されるようCEPA活動を行っていく。

②埋め立てによって海流が変化し沿岸湿地が劣化することは、泡瀬干潟や博多湾の人工島建設等からも証明されている。これ以上の湿地破壊が行われないよう諸活動を行う。

③ダム・堰による湿地破壊も深刻である。新規の建設を阻止すると共に、ダム・堰の撤去や水門開放を求めて、地域の市民と交流を進める。

3) 日本の砂浜が減っている。気候変動の影響で日本の砂浜の9割が21世紀末までに消失するという予測もある。それにも関わらず、砂は相変わらずコンクリートの骨材や埋め立て資材等に使われている。砂浜を失うような形の巨大防潮堤建設や護岸建設なども日本各地で進められている。砂浜の重要性が広く認識されるよう、CEPA活動を進める。

4) 泡瀬干潟（沖縄）、大浦川河口（沖縄）、表浜（愛知）をCOP14にてラムサール条約湿地に登録することをめざして諸活動を行う。

\*予算10万円

### ●田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト

#### ・国内での活動

田んぼ10年プロジェクトの全国集会（1回）、地域交流会（敦賀市・11月）、地域意見交換会（四国2回、宮城2回）の開催。ポスターとパンフレットを作成し、地域集会などで有効活用する。

田んぼ10年プロジェクトの内部評価を実施し、課題を抽出し、新行動計画書案作成に着手する。

「田んぼ10年だより」を3回発行。HPのシステム変更と更新（年6回）。MLでの情報提供と有効活用。

ラムネットJ 水田部会開催（年8回）。水田決議円卓会議準備会開催（ラムネットJ、環境省、農水省、国交省；年8回）。にじゅうまる COP4およびプロジェクト会議（10回）参加。

・国際的な活動

国際会議への参加：IUCN 地域会合（パキスタン）。CBD 補助機関 SBSTTA 会合（カナダ）。

国外での田んぼの生き物調査・交流：韓国で田んぼの生きもの調査（8月）。イフガオ州 Batad 棚田での本格調査と意見交換、ヒヤリング。（フィリピン、8-9月）。アタリ地区での水田生物調査と意見交換（ウガンダ）。

\* 予算 650 万円

●登録推進・条約実施

ラムサール条約 COP14 およびその後の新規の条約登録にむけて地域活動を支援する。また、条約湿地および保全が必要な湿地の維持・管理や利用計画について、環境省や自治体等へ働きかけを行う。

\* 予算 10 万円

(3) 普及・啓発事業

●湿地のグリーンウェイブ（WGW）

現在開催中の湿地のグリーンウェイブ 2019（4月～7月）は、59のイベントが参加し（5/28時点）、合わせて国連生物多様性の10年日本委員会のグリーンウェイブ（6/15までに開催分）、またにじゅうまるプロジェクトにも参加登録している。今期のキャンペーン期間中には、湿地のグリーンウェイブのHPの他にも、メールやSNSを活用した広報を行っている。

湿地のグリーンウェイブ報告書 2018 を発行予定（6月）。

2020年1月名古屋国際会議場にて開催される「にじゅうまる COP4」の分科会にて報告会を開催予定。今後、CEPA としての機能を強化するために、本事業の見直し、2020年以降の計画を策定していく。

\* 予算 20 万円

(4) 国際協力事業

●世界湿地ネットワーク（WWN）・国際協力部会

2019年からの新たな戦略計画の策定に注力する。

●日韓湿地 NGO の協力

「水の自然な流れ」のテーマを継続してラムサール COP14 にむけ、準備を行う。8月末には10周年記念行事の一環として実施するニック・デイビッドソン博士を招いて行う条約決議実施をテーマとしたシンポジウムを行い、11月末に韓国で第14回日韓 NGO 湿地フォーラムを予定している。

●翻訳プロジェクト

ラムサール条約締約国会議の決議が日本語でアクセス可能であることは、CEPA 活動や政府との交渉等において極めて重要である。しかしながら、COP11（ルーマニア）以降は決議のうちのごく一部しか邦訳されていない。特に、COP13（ドバイ）では、泥炭湿地、ブルーカーボン、潮間帯湿地、湿地の中での農業及びウミガメ保護に関し、重要な決議が多数採択されている。これら主要なものだけ

でも今年度中にはラムネットJとしての邦訳を成し遂げる。併せて、今年度は、若手を中心にメンバーを拡充し、邦訳作業の担い手を増やす努力を行う。

数値目標としては、上記5本の決議の邦訳を目標とする。

\* 予算60万円（国際協力事業合計）

## (5) ネットワーク推進事業

### ●ニュースレター

昨年度と同様に、2019年度も4回発行する（4月初旬、7月初旬、10月初旬、1月初旬）。各地の関連団体や施設などにも積極的に送付して、配布を依頼し、ラムネットJの組織・活動の周知や会員の拡大を図る。

\* 予算20万円

### ●ホームページ

ラムネットJのホームページで使用している管理ソフトが古くなり、サポートも終了しているので、新しいソフト（フリーウェア）への移行が必要となってきた。今年はその移行作業に取り組む。

## (6) 設立10周年事業

### ●シンポジウム

ラムネットJは、本年4月に設立から10年を迎えた。これを記念して2つのイベントを企画している。

#### 1) ラムサール・ネットワーク日本10年 成果と課題

前半は10年間の活動を振り返る。後半は地域からの報告をベースに、地域が期待していることやラムネットJの目標を如何に実践していくか考えていく。

#### 2) 水の自然な流れを守るために～ラムサール条約の実施とNGOの役割～

前・ラムサール条約事務局次長のニック・デイビッドソン氏を迎えて、ラムサール条約を活かすにはどうしたらよいか、ラムサール条約の現場での実践とNGOの役割についてご講演いただく。そして、日本、韓国をはじめとするNGOの取り組みについて報告し、水の自然な流れを守っていくための行動計画を話し合う。

### ●冊子・アーカイブ

設立10周年を記念して、10年間の振り返る冊子を作成して関係者に配布するとともにPDF化してホームページ等で公表する。また、10年間の活動の資料は膨大なため、アーカイブ化してホームページにアップし、希望者がダウンロードできるように整理する。

\* 予算120万円（設立10周年記念事業合計）

## (7) 組織構築の課題への取り組み

### 1) 組織の拡大

地方組織への呼びかけを強める。そのためのパンフレットを作成する。

### 2) 運営態勢の見直し

組織診断の手始めとして、内部評価委員会を理事会内につくる。

### 3) 財務状況の改善

理事会内に、広く集める寄付金、協賛金を増やす取り組みを強化する部門を設ける。また、2018年度まで続いていた大口寄付が2019年度からなくなるので2018年度の大口寄付金額500万円が2019年度については減額になるところ、2019年度はその余の寄付につき100万円増額を目指して2019年度収支予算書中の2019年度予算の受取寄付金額を200万円とし、前年度との比較欄（次ページ）では400万円の減額と記載している。